

## 令和7年度第2回 京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

### 1 日 時

令和8年3月26日（木） 午後2時～午後4時

### 2 場 所

京都市役所分庁舎4階 第1会議室

### 3 出席委員

戌亥委員、岩本委員、表委員、樫原委員、木塚委員、清原委員、小辻委員、中村（喜）委員、西村委員、藤本委員、松下委員、宮崎委員、余田委員

オブザーバー：小滝校長

### 4 次 第

#### ・挨拶

（議題）

#### ・令和8年度行動指針（案）について

・緊急の方策に係る動向

・行動指針（案）

#### ・令和8年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰（案）について

#### ・憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和8年度取組（案）について （報告）

#### ・「京都市はぐくみ憲章」子育て応援交流会について

（意見交換）

#### ・その他

### 5 会議録

（確認事項）

- ・渡守紘宜委員の後任として河内康太郎委員が、新しく就任。（京都青年会議所）
- ・土橋耕治委員の後任として吉村富式委員が、新しく就任。（京都市民生児童委員連盟）
- ・出席の委員が全委員の過半数を超えるため、会議が成立している。

#### ○挨拶

福井 弘 子ども若者はぐくみ局長

#### 【議題】

#### （1）令和8年度行動指針（案）について

##### ・緊急の方策に係る動向

児童虐待、いじめ、児童ポルノ、薬物（大麻・ドラッグ）、HIV・性感染症、インターネット依存に関する動向について説明。

委員

児童虐待に関する動向に関して、相談・通告件数は「学校等」が2番目に多いが、この中には幼稚園・保育園からの相談・通告件数も含まれているのか。

事務局

幼稚園は「学校等」に、保育園は「児童福祉施設」にそれぞれ含まれている。

委員

有職少年の非行率が高い。そこをどうサポートしていくかが重要。

委員

オランダでは喫茶店で大麻が購入できるといった事例もあることから、諸外国における薬物等に関する情報提供をしていただきたい。また、私たちの団体では保育園年長から高校3年生までを対象に活動しており、子どもへの性的な犯罪に関する報道が続く現状を鑑みると、子どもたちが被害に遭わないよう、大人がとるべき行動について学ぶ機会や情報提供をお願いしたい。

#### ・行動指針（案）

令和8年度京都はぐくみ憲章「行動指針」（案）について説明

（案1）Let's はぐくみアクション！～温かいまなざしで子ども一人ひとりに寄り添おう～

（案2）Let's はぐくみアクション！～心をつなぎ、地域みんなで子育てを支え合おう！～

（案3）Let's はぐくみアクション！～ひとりじゃないよ！子どもは地域の大切な“たからもの”～

委員

案3には児童虐待、孤立の原因に対して、「ひとりじゃない」という呼びかけが入っているため良い。

委員

どの案を選ぶかという点で懸念されるのは、大人一人ひとりの具体的な行動が可視化されにくいこと。例えば、案3の「ひとりじゃないよ。子どもは地域の大切な宝物」というメッセージに繋がる具体的な行動として、児童館などでその行動を可視化する集中実施期間を設けてみてはどうか。何らかの成果や手応えを感じられるかもしれない。

委員

どの案も良いが、キャッチフレーズとして一番分かりやすいのは「ひとりじゃないよ」という案3だと思う。インパクトがあって、ずっと入りやすい。

委員

案2が良いと思う。私の地域では、子どもたちと地域の方々が年2回お花を植えて地域に届ける活動をしている。お花を通じて高齢者（=地域）との心をつながりが生まれているという実体験もある。

委員

案3を「大人も子どもも」としてはどうか。子どもを支える大人も大切にしている、というメッセージが、はぐくみ憲章の趣旨にも合うのではないか。

委員

案3が良いと思う。6年かけて完成させた「山科かるた」の普及活動を、少年補導や児童館を通じて行っている。この活動は、大人が子どもを育むと同時に、大人もまた地域との繋がりを得るという好循環を生み出し、かるたによる郷土愛の醸成と地域の一体化を目指している。案3がこの取組の方向性とも一致すると感じる。

委員

案1の「寄り添う」というワードは過去のキャッチフレーズと重なるため、案2または案3が適切だと考える。案2の「心をつなぐ」は、多様な団体間の連携を重視したいという私自身の考えと、交流会で感じた必要性に合致しており、魅力を感じる。また、案3の「ひとりじゃないよ」は、キャッチコピーとして魅力的。子どもだけでなく、若者や大人にも響く言葉だと思った。

委員

足したり引いたりせず、ご提案いただいた通りの案3が良い。

**副会長**

案3の「ひとりじゃないよ」はキャッチーで、分かりやすく、メッセージが心に響く。子どもたちを活動の中心に据えることで、大人の行動にも良い変化が生まれ、大人同士のつながりや良好な人間関係が形成されるきっかけにもなる。そうやって大人が楽しんでいる姿をみて子どもも楽しくなる。案2もいいが、全体的なところで響くのは案3。

**委員**

昨年度、キャッチフレーズを毎年設定することについて意見が出たことを考慮すると、今までのものとは異なるニュアンスを持つ案3が良いと思う。呼びかけの対象がわからないからこそ子どもにも大人にも誰にでも届くのではないか。

**委員**

案1が良いと思う。子どもが地域に支えられることももちろん大事だが、親の愛情こそが最も重要。案1の「温かいまなざし」という表現のように、親の愛情を感じながら育つ子どもたちがより多くなることを期待する。

**委員**

イメージが付きやすい案3が良い。

**会長**

これまでの方針は「～しよう」といった行動を促すメッセージが多かった。案3の「ひとりじゃないよ」というメッセージは、子どもから大人まで、あらゆる対象に寄り添うように働きかけていると感じる。また、案1や案2が持つ意味合いを包含し得るものであり、多様な人々への広がりを持つと考える。令和8年度の行動指針として、案3とすることを提案するがいかがか。

(出席者から異議なし)

**会長**

リーフレットに記載する行動指針の内容について、ご意見はないか。

(出席者から意見なし)

**(2) 令和8年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰について**

**事務局**

令和8年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰募集について説明。

(出席者から意見なし)

**(3) 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和8年度取組(案)について**

**事務局**

憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和8年度取組(案)について説明。

(出席者から意見なし)

**【意見交換】**

「子どもを取り巻く環境の現状と課題、それを踏まえて所属団体または個人でやりたいことは何ですか。」

**委員**

今日の説明にあったインターネットの問題は、子どもたちの心に影響を与えている大きな課題だと感じている。諸外国では規制が進んでいるが、日本はそこまで進んでいない。そこで、例えば、時間

制限や場所の制限を設けるなどのルールを、国レベルではなく、市レベル、小学校・中学校レベルで設けてはどうだろうか。

**委員**

2月から、他団体と合同で20時から23時頃に家に帰らず外にいる若者たちに対し、飲み物や軽食を用意し、話を聞いたりするアウトリーチ活動をしている。片親で家に帰っても親がいないなど、複雑な家庭環境の子どもがいる。彼らにとってどのような居場所が必要なのか、どのようなつながりがあれば良いのかを議論しながら、地域がどのように関わっていくべきかを考えていきたい。

**委員**

ボーイスカウトが現在直面している課題は、山林火災多発に伴う活動自粛要請への対応、京都市から管理を委託されている静原キャンプ場での利用者の安全確保。こうした課題に対応しつつ、ひとり親家庭の子どもたちも活動できるよう、親への支援活動を行うなど、多様な背景を持つ子どもたちを対象に活動を展開している。

**委員**

指導している学生にヤングケアラーがいる。本人はその状況が特殊なことに気付かない、そのような子どもをどうすれば見つけられるか悩んでいる。また、子どもの貧困問題やオーバードーズで苦しむ子たちなど、支援の場所がない子たちとつながるにはどうしたらいいのかということも考えていきたい。

**委員**

4歳と1歳の2人の娘を持つ父親という立場で話すと、現代社会における多様な家族のあり方の中で、「こうあるべき」という固定観念にとらわれず、家族それぞれの希望が実現できる社会を目指すべきだと考えている。

**委員**

今の子どもたちは縛られすぎている。正しさが多様化する中で単一の正しさを教えるのは難しいので、多様な正しさがあることを伝えたくて、自分で選択できるよう教えたい。また、子どもも大人も対等に対話できる環境や場作りを進めることが、子どもも大人も共に成長する社会につながると考えているので、noteなどでの発信やワークショップの開催でそのような場を作っていく。

**委員**

自身の地域は高齢化が進み、子供の数が少なくなっている。その中で、個人としては子ども達への声掛けを大事にしたいと思っている。周りの高齢者の皆さんにも「子ども達に声掛けしましょう」「明るく呼びかけましょう」とお願いしている。

**委員**

児童館での子どもたちとの関わりを通して、いじめの低年齢化や保護者の子どもたちの人間関係に関する悩み、そして子どものゲーム課金といった問題が深刻化している現状に直面している。また、今年の夏には全児童館で利用者向けのWi-Fiを整備し、小学生のタブレット学習などに活用する方針。人と関わることが苦手な子どもが多いので、遊びを通じて、子どもたちが人とのつながりを学び、自分の気持ちを表現できるよう支援する児童館運営を目指し、子育てに関わっていきたいと考えている。

#### 委員

特に乳幼児を持つ子育て家庭が孤立しないよう、「ひとりじゃない」と感じられる場、環境、関係づくりに注力している。プレママ・プレパパ期から関わり、乳児検診後の早い段階から参加できるオリジナルプログラムを企画・実施。京都市の既存事業では満たしきれない産後の「休息したい」「同世代と交流したい」「子育てイベントに参加したい」という3大ニーズに応えるための施設を運営している。地域全体で子育て家庭を支えるという呼びかけには、カフェ、寺、銭湯、商店街といった地域の方から多くの賛同が得られ、「赤ちゃんを介して地域や人が繋がる」手応えを感じているので、「子どもを真ん中に地域が繋がる」活動をさらに展開していきたい。

#### 委員

今、子どもたちが困っていることは、たくさんあるのに、そこにたどり着けない、思っていることを言えない子がいるのではないかと強く感じている。賛否両論ある子どものネット利用についても、うまく使えば子どもたちが直接SOSを発信するツールになると考えている。

#### 委員

生涯学習の一環として、主に放課後の時間を利用し、見守り、子ども食堂、学習ボランティア、華道・茶道教室などを通じて子どもたちと関わっている。団体としては、女性会が「落葉クラブ」と称し、季節に応じたスキーや山での活動、公園での遊び、エコクッキングなどを企画し、子どもたちとの交流を深めている。

#### オブザーバー

中学校の教員として、コロナ禍の影響でコミュニケーション不足のまま成長した生徒たちが直面するいじめ、虐待、ヤングケアラー、インターネット起因の問題など、多様化・複雑化した課題に危機感を感じている。これらの問題は学校だけでは解決できないため、児童相談所や警察、医療機関などとの連携を強化している。特にインターネット上でのいじめや自傷行為の拡散に危機感を感じており、学期ごとの面談やヤングケアラー・いじめアンケートの実施で問題の早期発見に努めている。また、生徒たちには「頼れる人を作ることが自立」だと伝えている。そういった意味で、案3ででた「ひとりじゃないよ」というメッセージは個人としてもいいと思った。さらに、校則を大人ではなく生徒自身が議論し決定する「ルールメイキング」を実践しており、インターネット利用ルールについても生徒に作成させるのもありだと、お話を聞いて思った。令和10年には部活動の地域移行が控えており、特に「京都版地域クラブ」の実現には地域住民の協力が不可欠である。

#### 副会長

地域活動を通じて、物事を善悪で考えたりジャッジしたりすることが多いと感じている。善悪は立場が変われば逆転することもあるが、「みんなにとって幸せなことか、不幸なことか」という視点はある程度普遍的ではないかと考える。皆さんのお話からもたびたび出てきた「対話」で相手を認め、互いの意見の不足を受け入れながら、何が最善の目的かを話し合い、協力し合うことが、物事を前進させるための第一歩であると、今回の議論を通じて改めて考えさせられた。

#### 会長

「心の問題」の専門家として、心に悩みを抱える教職者向けの「リカレント教育講座」を企画し、教職者からのSOSに対応し、定期的に悩みを持ち寄り、話し合う場を提供している。現代の子どもたちは、「ひとりじゃない」というメッセージとは裏腹に、厳しい状況下にあること、また保護者も悩みを抱えつつも本音を話せる場が不足していることを感じており、誰もが安心して語り合える場が必要だと感じている。子育てに悩む保護者が「ちゃんと関われば大丈夫」「ひとりじゃない」と感じ、人

生を好転させる多くの事例を経験しており、今回の「ひとりじゃない」というテーマ設定はとても素晴らしいと思っている。